

会 報

No. 22

1985年10月

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

目 次

◆第8回 日本分子生物学会のお知らせ	1
◆昭和59年度 会計収支決算報告	1
◆会計監査報告	2
◆山田科学振興財団からの研究援助	2
◆第1回 ニューロエソロジー国際会議開催のお知らせ	2
◆「特許庁長官が指定する学術団体」の指定について	3
◆第13期 日本学術会議役員について	4
◆セミナーのお知らせ	5
◆日本生物物理学会創立25周年記念講演会	5
◆第8回 微生物シンポジウム—分子生物学とその薬学領域に おける応用面—予告	7
◆第13回 核酸化学シンポジウム—予告	8
◆山田科学振興財団より	13
◆東レ科学振興会より	14
◆日産科学振興財団より	15

◆第8回 日本分子生物学会のお知らせ

年会のプログラムが印刷できましたので、お届けいたします。尚、演題多数のため、講演時間10分、討論時間2分となりましたので、ご了承下さい。

また、京王プラザ・ホテルに年会期間中の宿泊を希望される方は、「分子生物学会宿泊」として、同ホテル営業推進部（電話：(03) 344-0258）へ直接お申込み下さい。スタンダード・タイプ室は20%割引、デラックス・タイプ室は30%割引となる由です。

年会についてのお問い合わせ、ご連絡は下記にお願い致します。

〒113 東京都文京区本郷2-40-14
 (財)日本学会事務センター内
 第8回 日本分子生物学会年会係
 電話 (03) 817-5831

◆昭和59年度 会計収支決算報告

昭和59年度 会計収支は以下の通りになりましたので報告いたします。

会計幹事 溝 渕 潔

〔I〕 収入の部		〔II〕 支出の部	
摘 要	金額(円)	摘 要	金額(円)
学会費(含入会費)	3,535,000	1. 事業費	(1,469,350)
賛助会費(21社31口)	930,000	会報発行	374,350
本会要旨売上	13,200	第7回年会プログラム	335,000
預金利息	31,222	第7回年会特別講演謝金	160,000
広告費	1,254,000	第8回年会補助	600,000
前年度からの繰越	3,797,410	2. 評議委員会費	(1,254,000)
		役員選挙(名簿作成)	1,254,000
総 計	9,560,832	3. 学会事務センター業務委託	(544,455)
		4. 一般事務費	(961,295)
		一般事務用品費	2,560
		印刷費	15,225
		郵送費	616,390
		一般事務謝金	323,000
		その他	4,120
		5. 翌年度への繰越	(5,331,732)
		総 計	9,560,832

◆会計監査報告

昭和60年6月28日、会計簿、預金通帳、領収書、学会費等払込通知票などの監査を行ない、決算に誤りのないことを確認した。

日本分子生物学会会計監査

上代淑人 ㊦

三浦謹一郎 ㊦

◆山田科学振興財団からの研究援助

山田科学振興財団より小関治男氏の「葉緑体の遺伝的制御」の研究に対して昭和60年度研究援助金500万円が送られます。

◆第1回ニューロエソロジー国際会議開催のお知らせ

1984年、ニューロエソロジー国際学会(International Society for Neuroethology, 会長:T. H. Bullock 教授)が発足し、第1回国際会議を1986年9月2日～6日、東京・上智大学で開催することになりました。

本会議はヒトも含めた動物行動発現に関する中枢神経機構の解析を中心テーマとして諸外国約20か国の研究者の参加による国際会議です。本会議に関しましては国際学会会員以外の方に対しても参加を認めて、学術的国際交流を図る所存ですので、多数御参加されることを希望しております。

会期：1986年9月2日(火)～6日(土)

会場：上智大学(東京)

主催：第1回ニューロエソロジー国際会議組織委員会
(組織委員長：桑原萬壽太郎)

会の主要議題：

- (1) Neural processing of information
- (2) Motor program generation and modulation
- (3) Learning and neural plasticity
- (4) Neurogenetics and behavioral development
- (5) Behavioral rhythms
- (6) Relevance to human biology

事務局：〒102 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学生命科学研究所
第1回ニューロエソロジー国際会議事務局
青木 清 (TEL 03-238-3490)

詳細をお知りになりたい方は、事務局までお問い合わせ下さい。First Circularをお送り致します。

◆「特許庁長官が指定する学術団体」の指定について

本会は、昭和60年1月28日付で、特許法第30条第1項に規定されている標記団体の指定を受けました。この指定によって、本会（支部を設置したときは、支部を含む）が開催し又は共催する研究集会（年次大会、臨時大会、講演会及びシンポジウム等）で発表された発明（考案も含む）は、本会が発行する「証明書」を特許庁長官に提出することにより、発明の新規性は、失われないことになりました。

「証明書」には、本学会名、発表者、発表年月日及び発明内容が明示されていなければなりません。発表内容は「文書」でなければならず、これには、発表に使用したスライドの写し、講演要旨及び研究集会において配布した文書等が含まれます（勿論、いずれについても特許出願した又は出願しようとする発明が記載されていなければなりません）。これら「文書」を発明内容として、証明書に添付します。尚、講演要旨集等の刊行物に記載されている事柄に関しては、本学会会長の証明がなくとも、刊行物の写しのみで、「証明書」として取扱われます。

本会の証明書を必要とする方は、本会宛証明願を提出願います（添付様式案をご参照下さい）。

証明書及び証明書の様式例

昭和 年 月 日
証 明 願
日本分子生物学会 会長 内田久雄 殿
（依頼者）住所 氏名 ㊟
日本分子生物学会〇〇〇〇において、添付の文書の発表が下記のとおりあったことをご証明下さい。
記
講演日 座 長 〇 〇 〇 〇 演 題 発表者名

昭和 年 月 日
証 明 書
上記のとおり相違ないことを証明します。
日本分子生物学会 座長 〇 〇 〇 〇 ㊟ 会長 内田久雄 ㊟

◆第13期 日本学術会議役員について

第98回 総会の第1日目の総会で会長及び両副会長、総会終了後の各部会で部長、副部長及び幹事がそれぞれ次のとおり選出されました。

昭和60年7月22日

役員名		氏名		職名
会長		近藤次郎	経営工学	国立公害研究所長
副会長(人文)		中川秀恭	宗教学	北海道大学名誉教授
" (自然)		八木國夫	生化学	応用生化学研究所長
第一部	部長	本明寛	心理学	早稲田大学(文)教授
	副部長	平山輝男	語学・文学	東京都立大学名誉教授
	幹事	黒田俊雄	歴史学	大阪大学文学部長
	"	寺沢恒信	哲学	東京電機大学(理工)教授
第二部	部長	片岡昇	社会法学	京都大学(法)教授
	副部長	小林孝輔	公法学	青山学院大学(法)教授
	幹事	谷川榮彦	政治学	九州大学(法)教授
	"	室井力	公法学	名古屋大学(法)教授
第三部	部長	高宮晋	経営学	産業能率大学(経情)教授
	副部長	高置塩信雄	経済理論	神戸大学(経)教授
	幹事	染谷恭次郎	会計学	早稲田大学(商)教授
	"	藤井隆	経済政策	名古屋大学(経)教授
第四部	部長	田丸謙二	化学	東京理科大学(理)教授
	副部長	渡邊格	分子生物学	北里大学(衛生)教授
	幹事	有馬朗人	物理学	東京大学理学部長
	"	大木道則	科学教育	東京大学(理)教授
第五部	部長	伊藤富雄	災害工学	大阪工業大学(工)教授
	副部長	米田幸夫	材料工学	東海大学教授
	幹事	猪瀬博	情報工学	東京大学(工)教授
	"	山口梅太郎	資源開発工学	東京大学(工)教授
第六部	部長	三村耕	農業総合科学	広島大学名誉教授
	副部長	江川友治	土壌肥料学	明治大学(農)教授
	幹事	飯田格	植物防疫	千葉大学(園芸)教授
	"	日比谷京	水産学	日本大学(農獣)教授
第七部	部長	本間三郎	生理科学	千葉大学(医)教授
	副部長	北川晴雄	医薬	千葉大学薬学部長
	幹事	鎮目和夫	内分泌学	東京女子医科大学教授
	"	高久史麿	血液学	東京大学(医)教授

◆セミナーのお知らせ

主 題 : 計算機による核酸・蛋白質の情報解析
主 催 : (財) 難病医学研究財団
共 催 : 東京大学医科学研究所遺伝解析施設
日 時 : 昭和 60 年 11 月 14 日 (木) 10:00 ~ 17:00
場 所 : 東京都港区白金台 4-6-1
東京大学医科学研究所講堂 (受講無料)
講 義 : はじめに

内 田 久 雄 (東大医科研)
生物・医学研究におけるコンピューター環境
神 沼 二 真 (東京都臨床研)
BIONET および BIONの紹介
水 本 澄 美 (伊藤忠データシステム)
マイクロコンピュータを用いた核酸・蛋白質の情報解析
江 口 至 洋 (三井情報開発)
VAX 計算機による遺伝情報解析システム
伊 藤 彬 (東大医科研)
国立遺伝研遺伝情報研究センターの活動
丸 山 毅 夫 (国立遺伝研)
国 際 的 情 勢
金 久 実 (MIH)
蛋白質の一次構造と高次構造との相関
大 井 龍 夫 (京大化研)

◆日本生物物理学会創立 25 周年記念講演会

“バイオサイエンス・バイオテクノロジーの基礎としての生物物理の展開”

主 催 : 日本生物物理学会
後 援 : 科学技術庁 文部省 通産省
経済団体連合会・ライフサイエンス委員会
開催日時 : 昭和 60 年 12 月 10 日 (火) 午前 9 時 30 分 ~ 5 時 30 分
開催会場 : 大手町 経団連ホール
参加人員数 : 約 300 名 (内 学生 100 名)
参加料 : 一般 8,000 円 (当日 10,000 円), 学生 3,000 円
申込方法 : 宛名等を記入したハガキを下記にお送り下さい。折返し参加要領
等をお送り致します。

事務局：東京大学理学部物理学教室 和田昭允
東京都文京区本郷7-3-1
電話 03-812-2111 内線 4217, 4211

[プログラム]

第一部 生物物理の最近の進歩

- 1) 挨拶：バイオテクノロジーの苗床としての生物物理 (9:30 ~ 9:50)
東京大学理学部 和田昭允
- 2) 動く遺伝子を使っての遺伝・生物機能解析 (9:50 ~ 10:20)
— トランスポゾンを用いた染色体への遺伝子導入 —
東京大学理学部 堀田凱樹
- 3) DNAとタンパク質の分子デザイン (10:20 ~ 10:50)
米国 NIH 金久 実
休憩 (10分)
- 4) タンパク質分子の構造からタンパク質工学へ (11:00 ~ 11:30)
九州大学理学部 郷 信広
- 5) 映像化された生体分子の新しい物性 (11:30 ~ 12:00)
京都大学理学部 宝谷 紘一
休憩 (1時間)
- 6) 生体の非破壊計測 (13:00 ~ 13:30)
日本電子(株) 永山 国昭
- 7) 生体光素子：バクテリオロドプシン (13:30 ~ 14:00)
理化学研究所 木下 一彦
- 8) 生体エネルギー変換の分子メカニズム (14:00 ~ 14:30)
— 三次元的な分子の姿とその動き —
東京大学理学部 若林 健之
休憩 (10分)

第二部 21世紀へ向けての生物物理の展望

- 9) 総力戦としてのバイオサイエンステクノロジー：生物物理の位置づけ (14:40 ~ 15:00)
東京大学理学部教授 和田昭允
- 10) 分子生物学と生物物理 (15:00 ~ 15:30)
日本学術会議会員 渡辺 格
- 11) 生理学・医学と生物物理 (15:30 ~ 16:00)
生理学研究所所長 江橋 節郎
休憩 (10分)

- 12) 物性物理と生物物理の発展的融合 (16:10 ~ 16:40)
 東京大学理学部教授 鈴木増雄
- 13) 21世紀へ向けての生物物理の展開 (16:40 ~ 17:10)
 大阪大学基礎工学部教授 日本学術会議会員 大沢文夫
- 14) 挨拶 (17:10 ~ 17:30)
 前東京理科大学学長 小谷正雄

◆第8回微生物シンポジウム—分子生物学とその薬学領域における応用面—予告

と き 昭和61年7月17日(木), 18日(金)
 と ころ 石川県教育会館(金沢市香林坊)
 主 催 日本薬学会
 討論主題 遺伝子, プラスミド, 遺伝子操作とその応用, 生理活性物質とその作用機作, 薬剤耐性, 微生物学の最近のトピックス等微生物を用いた基礎的研究及び応用研究の演題を募集します。断片的経過報告ではなくじっくり討論できる内容の演題を望みます。

演題申込締切 昭和61年1月17日(金)

400字詰め原稿用紙2枚以内に (1)予定演題, (2)予定演題の英訳, (3)研究機関名, (4)発表者氏名(連名の場合は講演者に○印), および(5)講演内容の概略を記入し, 書留便にて下記あてお送り下さい。演題の採否は実行委員会に御一任下さい。

講演要旨締切 昭和61年2月21日(金)

講演者には講演要旨用の用紙をお送りします。

特別講演 柳田友道(元 富山大学学長)

演題: 未定

水野伝一(帝京大学薬学部教授)

演題: h-TNF(ヒト腫瘍壊死因子)

斉藤日向(東京大学応用微生物研究所教授)

演題: 枯草菌の増殖と細胞分化の制御機構

鈴木義昭(基礎生物学研究所教授)

演題: 分化した細胞での遺伝子発現はどのように制御されているか

参加申込要領

1. 参加申込締切 昭和61年5月31日(土)

参加申込希望者は必ず郵便振替用紙(郵便局の窓口で交付を受けて下さい)を用い, 通信欄に (1)氏名, (2)薬学会会員, 学生会員, 非会員の別,

(3)勤務先, (4)連絡先, (5)送金内訳を明記して所定の金額を下記宛に振り込んで下さい。

(口座番号) 金沢 6-16841

(加入者名) 微生物シンポジウム

2. 参加費

予約申込(要旨集郵送)

一般会員(4,000円), 学生会員(2,500円), 非会員(4,500円)

当日申込 一般会員(4,500円), 学生会員(3,000円), 非会員(5,000円)

連絡先 〒920 金沢市宝町13-1

金沢大学薬学部 微生物シンポジウム実行準備委員会

代表 正宗 行人

TEL (0762) 62-8151 ext. 4413

◆第13回 核酸化学シンポジウム(予告)

共催 日本分子生物学会ほか

日時 昭和60年11月6日(水), 7日(木), 8日(金)

会場 吹田市文化会館中ホール 吹田市泉町2-29-1 電話(06)380-2221

[交通] 阪急電車千里線吹田駅下車すぐ, または国鉄東海道線吹田駅下車徒歩10分

講演は1件あたり12分, 討論3分

第1日(11月6日) —(9時10分から)—

1. DNAのB-A転移の微細構造

(東大理・サントリー) ○陶山 明・小山嘉晃・和田昭允

2. dinitrobenzene 誘導体の変異原性と calf thymus DNA に対する T_m 値上昇効果について

(名城大薬) ○古川秀之・河井一明・河合徳久

3. 二本鎖デオキシオリゴヌクレオチドのCDスペクトルに及ぼす末端塩基対の効果

(北大薬) ○佐藤正幸・樋口裕高・小野 晶・上田 亨

4. 2-methyladenine 類および poly(m²A) と poly(br⁵U) との相互作用

(三菱化成生命研・富山医薬大和漢薬研) ○樋口成定・安井久美子・服部征雄

5. 室温と低温におけるトリヌクレオチドの発光特性

(名大理) ○今久保慶一

6. ε-アデノシン含有ポリリボアデニル酸とポリリボウリジル酸の複合体形成

— 蛍光法による研究 —

(山口大理・米国メリーランド大化) ○久保田幸雄・藤崎康雄・R.F. Steiner

7. ラマン分光による r(CG)₃ の A→Z 構造変化

(東大薬・阪大薬) ○西村善文・坪井正道・上杉晴一・大久保充・池原森男

8. 左巻き2重らせん構造をとるRNAオリゴマーの結晶構造

(阪大薬) ○中村友美・藤井 敏・浦田秀仁・上杉晴一・池原森男・富田研一

9. CrOリプレッサー蛋白質とオペレーターDNAとの相互作用における特異性

(阪大蛋白研・阪大薬) 李 尚鐘・○白川昌宏・阿久津秀雄・京極好正・白石昌彦・北野勝彦・新 優・大塚栄子・池原森男

10. 新規含窒素抗腫瘍性化合物の核酸親和性に関する評価
 (京大化研・大阪薬大・千葉大薬) 長尾善光・佐野茂樹・落合正仁・富士 薫・藤田栄一・宮坂忠与・石井 永
11. 核酸塩基およびニトロベンゼンホウ素酸を担持したシリカゲルによる核酸塩基誘導体, ヌクレオシドの分離
 (鹿児島大工・スエーデン, ルンド大) 明石 満・時吉智文・宮内徳之・K. Mosbach
12. 一本鎖オリゴデオキシリボヌクレオチド用シリカ系逆相カラム
 (京工繊大繊維・阪大薬・東洋曹達) 牧野圭祐・尾崎広明・和田啓男・武内民男・池原森男・福井寿一・佐々木博朗・加藤芳男
 — (13時50分から) —
13. 「特別講演」 Interaction of antitumor drugs and DNA : crystallographic studies
 (米国マサチューセッツ工大生物) 〇A.H.-I.Wang・A. Rich
14. 1-ハロ糖と含窒素求核試剤の第3アミン存在下の反応
 (愛媛大工) 〇渡辺 裕・上村敦彦・生瀬一彦・長瀬敏雄・尾崎庄一郎
15. 還移金属錯体をプロモーターとするチミン誘導体の放射線ヒドロキシル化反応
 (京大工) 西本清一・〇新原直樹・金戸正行・阪野公一・鍵谷 勤
16. 核酸塩基とその関連化合物の過硫酸塩を用いる反応
 (鹿児島大教養) 〇板原俊夫・海老原麗子・瀬戸雄一・藤井幸子・多田美樹
17. N-架橋フラノシルーウラシル類のN-架橋ピラノシルーウラシル類への異性化
 (名大工) 源 勝磨・〇田中敏博・東 希志
18. 9位置換1-メチルアデニン類のDimroth 転位: 9位 β -D-リボフラノシル基の促進効果
 (金沢大薬) 藤井澄三・〇斎藤 徹
19. 1,3-ジメチルチミンエポキシドとアミン及びアミノ酸誘導体との反応について
 (京大薬) 原山 尚・〇柳田玲子・多賀 徹・町田勝之輔・米田文郎
20. 2-ピリミドンリボシド誘導体の合成とそのCDase 阻害活性
 (国立がん研) 〇前田満和・金子千里・内田紀子・佐々木琢磨
21. ヌクレオシド抗生物質 ascamycin および関連化合物の合成と生物活性
 (理研) 〇生方 信・長田裕之・磯野 清
22. t-ブチル基を持つシリルヌクレオシドの合成
 (工技院織高研) 〇古沢清孝・曾良達生・坂井 士・津田圭四郎
23. グリゼオール酸誘導体の研究 I
 (三共化研・三共生研) 〇金子正勝・室伏良信・木村美佐子・山崎光郎・飯島康輝
24. 3'(5')-O-アミノヌクレオシドの合成
 (田辺応用生化研) 近藤一彦・〇大菊 鋼・井上一三
25. 2-アルキニル及び2-アルケニルアデニンヌクレオシドの合成と薬理作用
 (昭和大薬・ヤマサ醤油研・北大薬) 〇松田 彰・篠崎 操・宮坂 貞・畔蒜藤一・上田 亨

第2日(11月7日) ー(9時00分から)ー

26. アデノシン誘導体のアシル転位反応
(理研) ○安斎謙太郎・鶴沢 洵
27. 2', 5'-ジクロロウリジン誘導体と求核試薬との反応
(岐阜薬大・名城大薬) 広田耕作・○富士哲男・北出幸夫・牧 敬文・余合 基
28. リチウムジアルキルアミドによるウリジンのリチウム化反応の機構について
(昭和大薬) ○早川弘之・田中博道・丸山裕子・小尾紀行・宮坂 貞
29. 3-デアザウリジンの光化学反応を利用した光学活性 β -ラクタム類の合成
(東北大薬) 片桐信弥・○羽田 融・金子主税
30. 光反応を利用したホスホン酸架橋シクロアデノシンの合成
(徳島文理大薬) ○丸山徳見・足立裕弘・本庄美喜男
31. 5-置換ウラシル骨格を含むポリ-L-グルタメートの合成
(阪大工) 望月衛子・稲木良昭・○竹本喜一
32. (6,9)-ブリノファンの異常反応性について
(阪大産研) ○東井隆行・坂田祥光・三角荘一
33. 2'-末端を修飾した2'-5'オリゴアデニル酸(2-5A)類縁体の合成
(名大化測機セ・名大理) 早川芳宏・○昇 忠仁・野依良治
34. 2'-末端に修飾アデノシンを含む2-5Aの合成と性質
(千葉工大) ○吉田司朗・高久 洋
35. 2-5Aの β -アラニルチロシン誘導体の合成と生物学的作用およびその利用
(東大薬) ○沢井宏明
36. 3'末端に2'-デオキシアリステロマイシンを含むDNAオリゴマーの固相合成と遺伝子操作への応用
(武田薬品生物学研) 宮下 修・○谷山佳央・藤沢幸夫・丸本龍二
37. 無水条件下でのヌクレオシドホスファイトトリエステルの新しい酸化法
(名大化測機セ・名大理) 早川芳宏・○内山 守・野依良治
38. 非保護ヌクレオシドとホスフィン誘導体によるDNAフラグメントの迅速合成
(京大工) ○清水剛夫・毎熊誠一郎・矢本修平・山名一成・本多健一
39. Enzymatic purification of chemically synthesized oligodeoxyribonucleotides prior to removal from a solid-support
(米国チロン社研究所) ○T. Horn・M.S. Urdea

ー(13時40分から)ー

40. 「特別講演」 A new synthesis of 9- β -D-ribofuranosyl uric acid and its 5'-monophosphate
(西独コンスタンツ大化) ○B.S.Schulz ○W. Pfeleiderer
41. 5'-リン酸化オリゴヌクレオチドの固相合成
(宝酒造中研) ○近藤昭宏・内村結花・君塚房夫・大林 晃
42. 新核酸プローブの合成と性質
(北大薬) ○井上英夫・早瀬要治・浅香美幸・井村明弘・岸井成憲・三浦一伸・大塚栄子

43. インターカレーターを有するオリゴヌクレオチドの合成と性質
(米国ノースウエスタン大化) ○山名一成・R.L.Letsinger
44. RNA オリゴマーの固相合成法の開発
(東大工) 平尾一郎・石川正英・三浦謹一郎
45. 2'-および3'-O-テトラヒドロピラニルリボヌクレオシド類の簡便な合成法ならびにリボヌクレオチドオリゴマーの合成 (東工大理) ○釜池和大・植村文彦・山影俊一・石戸良治
46. 臭化シアンとジイミノスクシノニトリルによる核酸オリゴマーの鋳型合成
(三菱化成生命研) ○金谷栄子・柳川弘志
47. mRNA のスプライシングに関与する分岐 RNA の合成
(東工大総合理工) ○関根光雄・畑 辻明
48. Solid-phase methods for sequencing nucleic acids III Simultaneous sequencing of different long RNA fragments using DE 81 anion-exchange paper
(東ドイツ科学アカデミー分子生物学研) ○A.Rosenthal・J.Schulz・B.Gross
49. プレオマイシンおよびヘミン-インターカレーターによる DNA 切断: 二塩基除去機構
(東大薬) ○橋本祐一・飯島博之・野崎義人・首藤紘一
50. DNA 1次・2次・3次構造に依存したプレオマイシンの DNA 切断作用
(京大農) 植田和光・小林 聡・駒野 徹
51. DNA 標的制癌薬物の研究: カンプトテシン銅の光増感 DNA 切断
(京大薬) ○桑原 淳・鈴木 匡・杉浦幸雄
52. 超らせんプラスミド DNA に対するオゾン分解反応の塩基配列特異性
(北大薬・工技院北開試) ○沢田石一之・三浦一伸・大塚栄子・上田 亨・石崎紘三・神力就子
53. Specific cleavages of DNA by ascorbate in the presence of copper ion or copper chelates
(台湾大生化研) ○S.-H. Chiou・W.-C. Chang・Y.-S. Jou・H.-M. M. Chung・T.-B. Lo
54. タンパク質合成におけるアミノアシル tRNA およびペプチジル tRNA の 2'/3' 異性体特異性
(東大理) ○横山茂之・泰地陸夫・宮沢辰雄
55. tRNA の 3次構造の変化がアミノ酸受容能に及ぼす影響: トルラ酵母 tRNA^{Tyr} 変異体を用いて
(名大理) ○大山 隆・西川一八・竹村彰祐
56. 牛肝 serine tRNA と seryl-tRNA 合成酵素との相互作用に関する研究
(名市大薬) ○橘 芳夫・神戸啓子・水谷隆治
- 第3日(11月8日) —(9時00分から)—
57. Q塩基に対する単クローン抗体の調製とその性質
(国立がん研・東大医・武田薬品中研) ○口野嘉幸・木村康志・秋元 治・野村容朗・亀井典子・西村 暹
58. 高度好熱菌 *Thermus thermophilus* にみられる2種類の tRNA (Gm) メチラーゼ
(東大工・東大農・三菱化成生命研) ○堀 弘幸・松本 隆・渡辺公綱・太田隆久・佐藤尚武・三浦謹一郎

59. 酵母ペプチド鎖延長因子 EF-3 とヌクレオチドとの相互作用
(名大理) ○ 瓜谷真裕・宮崎正澄
60. キャップ構造を含む mRNA 先導配列部分の化学合成とタンパク質合成開始複合体形成効率の比較
(東工大総合理工・東大工) ○ 河野亨子・西山伸一・上村 孝・関根光雄・畑 辻明・熊谷 泉・三浦謹一郎
61. In vitro DNA 合成における N⁴-アミノ dCTP の両義的取り込みと N⁴-アミノシチジンによる変異
(岡山大薬) ○ 根岸和雄・高橋美都子・西沢正彦・野村明德・早津彦哉
62. 3'-デオキシリボヌクレオチドによるサクラマス精巣 DNA ポリメラーゼ α -プライマーゼ活性阻害の解析
(北大薬) ○ 伊豆田俊二・香坂瑞枝・実吉峯郎
63. dNTP-unbalanced cell death-5FU 及びその誘導体の細胞致死のメカニズムについて
(岡山大薬) ○ 吉岡晃子・田中章平・平岡 修・小山雄二・広田泰秀・綿矢有佑
64. スラミンによる DNA プライマーゼ・ポリメラーゼ α 活性の阻害機構
(愛知がん研) ○ 小野克彦・中根英雄・福島雅典
65. RNA ポリメラーゼ α 酵素と DNA プライマーゼ, 延長因子, F1-ATPアーゼ α , リボソーム蛋白 L3 および DNA ポリメラーゼ I との相同性
(新潟大理) ○ 大西耕二
66. Base modification and cloning efficiency of oligodeoxyribonucleotides synthesized by the phosphoramidite method: Methyl versus cyanoethyl phosphorus protection
(米国チロン社研究所) ○ M. S. Urdea · L. Ku · T. Horn · Y. G. Gee · B. D. Warnr
67. 「特別講演」 RNA polymerase: direct evidence for two active sites involved in transcription
(米国デラウエア大化) D. Dennis
- (13時30分から)—
68. プレバクテリウム属細菌プラスミドの全塩基配列決定並びにその遺伝情報の解析
(味の素中研) ○ 山口隆司・寺部真人・三輪清志・佐野孝之輔・土屋 誠・高木博央・森永 康・中森 茂・百瀬春生・山崎晤弘
69. ヒト EGF レセプター染色体遺伝子のクローニング
(湧永製薬中研) ○ 長谷川明・八木慎太郎・榎 昇・吉松忠憲・野島直人・鈴木正則
70. 大腸菌でのヒトがん壊死因子 (TNF) の高度発現
(大日本製薬総研) ○ 福井寿一・山岸純一・古谷泰治・野竹三津恵・山吉迪子・野村英城・山田正明・中村信一
71. ヒト内在性レトロウイルス遺伝子のクローニング
(国立がん研) ○ 原田文夫・加藤宣之
72. cDNA の 3' noncoding region が発現に及ぼす影響について
(サントリー生医研) ○ 野村みどり・大島武博・田中正治

73. ヘルペスウイルス・チミジンキナーゼ遺伝子で形質変換したチミジンキナーゼ欠損マウス乳癌由来FM3A変異株細胞の(E)-5-(2-Bromovinyl)-2'-deoxyuridine 及び関連化合物に対する高感受性について

(ベルギー, カソリック大レガ研・埼玉がん研)

J. Balzarini・E. De Clercq・鮎沢 大・瀬野悍二

74. RNAase T1変換体遺伝子の合成と活性

(阪大薬・北大薬)・西川 諭・森岡弘志・徳永知子・青山義行・桔梗谷 正・

藤本和子・田中俊樹・上杉晴一・大塚栄子・池原森男

75. 「特別講演」 The synthesis and biological properties of some 5-substituted -2'- deoxyuridines

(英国バーミンガム大化・ベルギー, カソリック大レガ研)

○R. T. Walker・M. J. Slater・A. S. Jones・

J. Balzarini・E. De Clercq

参加費 予約 4,500円, 当日 5,000円(当日渡し要旨集代を含む)

懇親会 11月6日 17時30分から吹田市文化会館レセプションホールで, 会費5,000円

参加予約申込締切 10月5日(土)

氏名, 所属, 連絡先および懇親会参加の有無を明記のうえ, 郵便振替「大阪8-18017番, 第13回 核酸化学シンポジウム」または現金書留で下記連絡先へお申し込み下さい。

連絡先 〒565 吹田市山田丘1-6

大阪大学薬学部 富田 研一

電話 (06) 877-5111 内線6211

◆昭和61年度 山田科学振興団研究援助候補推薦要領

1. 援助の趣旨

本財団は, 自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人またはグループに対し援助します。

2. 援助の金額及び期間

イ. 金額

(A) 1千万円前後2千万円以内の援助, (B) 3百万円前後5百万円以内の援助, 併せて10数件

ロ. 期間 1年を原則とします。研究の継続を必要とする場合は, 毎年提出された推薦書に基づき選考します。

3. 推薦方法

イ. 推薦者 本財団が依頼した学(協)会の代表者

ロ. 推薦件数 1推薦者ごとに(A), (B)おのおの1~2件

4. 推薦締切期日 本財団へ推薦者が到着する締切期日は昭和61年3月31日(日)です。

5. 推薦書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団 (Yamada Science Foundation)

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号 ロート製薬株式会社内

電話 大阪 (06) 758局 1231 ロート製薬株式会社呼出

◆第26回(昭和60年度)東レ科学技術賞候補者推薦要領

1. 候補者の対象 貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの
(1) 学術上の業績が顕著なもの
(2) 学術上重要な発見をしたもの
(3) 重要な発見をして、その効果が大きいもの
(4) 技術上重要な問題を解決して技術界に貢献するところが大きいもの
2. 科学技術賞 1件につき本賞：金メダル・副賞：300万円(2件前後の予定)
3. 候補者推薦件数 1学協会から2件以内
4. 推薦者 学協会の代表者
5. 推薦手続 所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、本会宛1部ご送付願います。
6. 推薦締切期日 昭和60年11月10日(土)
7. 選考方法 下記委員会からなる選考委員会を設けて選考し、評議会において受賞者を決定します。

選 考 委 員 (順不同)

委員長 今堀和友
近藤次郎 早川幸雄 田中良平 岡田善雄
長谷田泰一郎 西原 宏 向山光昭
8. 科学技術賞の贈呈 昭和61年3月の予定

◆第26回(昭和60年度)東レ科学技術研究助成候補者推薦要領

1. 候補者の対象 貴学協会に関する分野で基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる研究を活発に行っている研究者、またはそのグループ。
2. 研究助成金 総額1億円前後、1件1,000万円程度としますが、あまりこの額にとらわれる必要はありません。とくに重要と認められる研究については3,000万円程度でも助成を考慮します。
3. 候補者推薦件数 1学協会から3件以内
4. 推薦者 学協会の代表者
5. 推薦手続 所定の推薦用紙に必要事項を記載し、本会宛1部ご送付願います。
6. 推薦締切期日 昭和60年11月10日(土)
7. 選考方法 下記委員からなる選考委員会を設けて選考し、評議員会において決定します。

選 考 委 員 (順不同)

委員長 今堀和友
近藤次郎 早川幸雄 田中良平 岡田善雄
長谷田泰一郎 西原 宏 向山光昭
8. 研究助成金の贈呈 昭和61年3月の予定
財団法人 東レ科学振興会
〒103 東京都中央区日本橋室町2丁目8番地(三井6号館)
電話 東京 (03) 245-5919

◆第12回(昭和60年度)日産学術研究助成候補推薦要領

1. 助成の趣旨

自然科学を主とする学術の有意義な研究であって、先駆的かつ独創的なもの、また学際的なグループによって行なわれるものに対し助成を行ない、わが国の基礎学術の向上、進展に寄与しようとするものであります。

2. 助成対象研究分野

助成対象を資源・エネルギー、環境の分野の基礎研究、および応用研究とし、本年度は当該分野のうち次のような研究を期待します。

なお、極めて創意性に富むもので、これを実証する研究業績によって将来の発展が見込まれる萌芽的研究に対しては一般研究助成(B)とし、また必ずしも実験を伴う研究のみでなくいわゆるソフトの研究に対しては調査研究助成として扱います。

- ① 高等生物のバイオサイエンス
- ② 環境の改変の生態系に及ぼす影響
- ③ 生物指標による人間環境の評価
- ④ 新しい原理に基づく環境の分析と制御の方法
- ⑤ 環境汚染物質の複合効果とその機構
- ⑥ 有害生物の無公害駆除法
- ⑦ 環境の自然浄化機構
- ⑧ 新しい機能材料
- ⑨ 人間—機械系の解析による安全性向上
- ⑩ ソフト・エネルギーの開発と利用
- ⑪ 海洋の利用
- ⑫ その他上記に類する研究

例示した課題の内容については別添の説明資料をご覧ください。

3. 助成対象の研究者

貴学(協)会に関する自然科学分野の研究に従事しており、1～3年を要する上記の研究を行なおうとする研究者および研究グループで、その研究成果が学術の進歩、発展に貢献する所が大きいと思われるもの。

4. 研究助成金額と助成件数

区分 要項	一般研究助成		調査研究助成
	(A)	(B)	
助成対象	研究期間が長期にわたる研究、学際的グループ研究等 助成期間は2～3年*	極めて創意性に富む萌芽研究 助成期間は1年**	ハードな研究を前提とする調査研究（研究計画の評価有効な研究方法の探究等） 助成期間は1～2年
助成金総額 (1件の金額)	約200,000千円 (上限30,000千円)	約40,000千円 (上限3,000千円)	約10,000千円 (上限4,000千円)
採択件数	10件程度	15件程度	3件以内
助成金の 支払期間	昭和61年度(61/4～62/3)を助成第1年度とし、研究計画に従い年度毎に所要額を交付	昭和61年度に交付	昭和61年度を第一年度とし、研究2年にわたるものは年度毎に所要額を交付
助成金の 使途条件等	—————	—————	主として調査、討議等に要する費用

注) * 研究の性質上、特に必要な場合は研究が4年にわたることを認めます。

** 研究の性質上、研究期間が2年にわたるものも認めます。

5. 推薦件数

助成区分を通じ1学・協会より1～3件とします。

6. 推薦者

学・協会の代表者とします。

7. 推薦手続

所定の推薦用紙に必要事項を記入し、当財団あてに1部をご送付願います。

8. 推薦締切日

昭和60年11月11日(月)

9. 選考方法

下記委員からなる選考委員会において選考の上、当財団理事会で決定します。

(委員長) 向坊 隆
 佐々 学 田島弥太郎 沼田 真 藤永太一郎
 西澤潤一 岡田善雄 有馬朗人

(推薦書提出先・連絡先)

財団法人 日産科学振興財団
 〒104 東京都中央区銀座6丁目17番2号
 電話 東京(03)543-5597